

デジタルアーツ株式会社
(証券コード 2326)



2019年3月期 第3四半期
(2018年4月1日～2018年12月31日)

補足説明資料
2019年1月31日 (木)

2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

決算のポイント

① 公共向け市場で総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まり 最高の売上高を更新

- 内部情報漏洩型のセキュリティ対策メーカーとして積み上げてきた実績と信頼性が評価され、標的型攻撃を含めた高度なセキュリティ対策が可能となる「i-FILTER」 Ver.10、「m-FILTER」 Ver. 5の販売が進む
- 企業向け市場に先行して、公共向け市場における総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まる

② 企業向け市場で「FinalCode」の案件が活性化。過去最大の案件を獲得

- 従来より要望の高かった「ブラウザービュー」機能を追加した事等により、一時期停滞していた「FinalCode」の案件獲得が進み始め、過去最大の案件を獲得

③ 「青少年インターネット環境整備法」改正に伴い、青少年を中心に フィルタリング導入が進む

- 2018年2月1日に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正され、従来から義務付けられている青少年に対するフィルタリング導入の運用がより厳格化
- 拡大する青少年のスマートフォン利用に対して、フィルタリング導入が進む

2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

連結決算ハイライト

連結売上高

売上高： **4,166** 百万円 (前期比 +615百万円 / +17.3%)

公共向け市場で総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まった事、家庭向け市場の好調を主要因として、全社売上が大きく成長

営業利益

営業利益： **1,674** 百万円 (前期比 +509百万円 / +43.7%)

上半期において、グループの海外戦略の見直しに伴う再編費用等が発生したものの、経営資源の選択と集中効果が出始め、収益性が改善

経常利益

経常利益： **1,674** 百万円 (前期比 +496百万円 / +42.2%)

営業利益の成長に伴い、経常利益ベースでも対前期増益となる

親会社株主に帰属する
四半期純利益

四半期純利益： **1,418** 百万円 (前期比 +640百万円 / +82.4%)

米国子会社清算に伴う税金費用の抑制効果により、四半期純利益は大幅増益となる

連結業績

(単位：百万円)

項目	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	前期比	通期予想
売上高	3,551	4,166	+17.3%	5,800
売上総利益	2,777	3,357	+20.9%	4,700
販売管理費	1,612	1,683	+4.4%	2,100
営業利益	1,164	1,674	+43.7%	2,600
経常利益	1,177	1,674	+42.2%	2,600
親会社株主に帰属する 四半期純利益	777	1,418	+82.4%	2,000
ROE	14.3%	21.2%	—	—

※ 「通期予想」は2018年10月30日公表の修正後連結業績予想

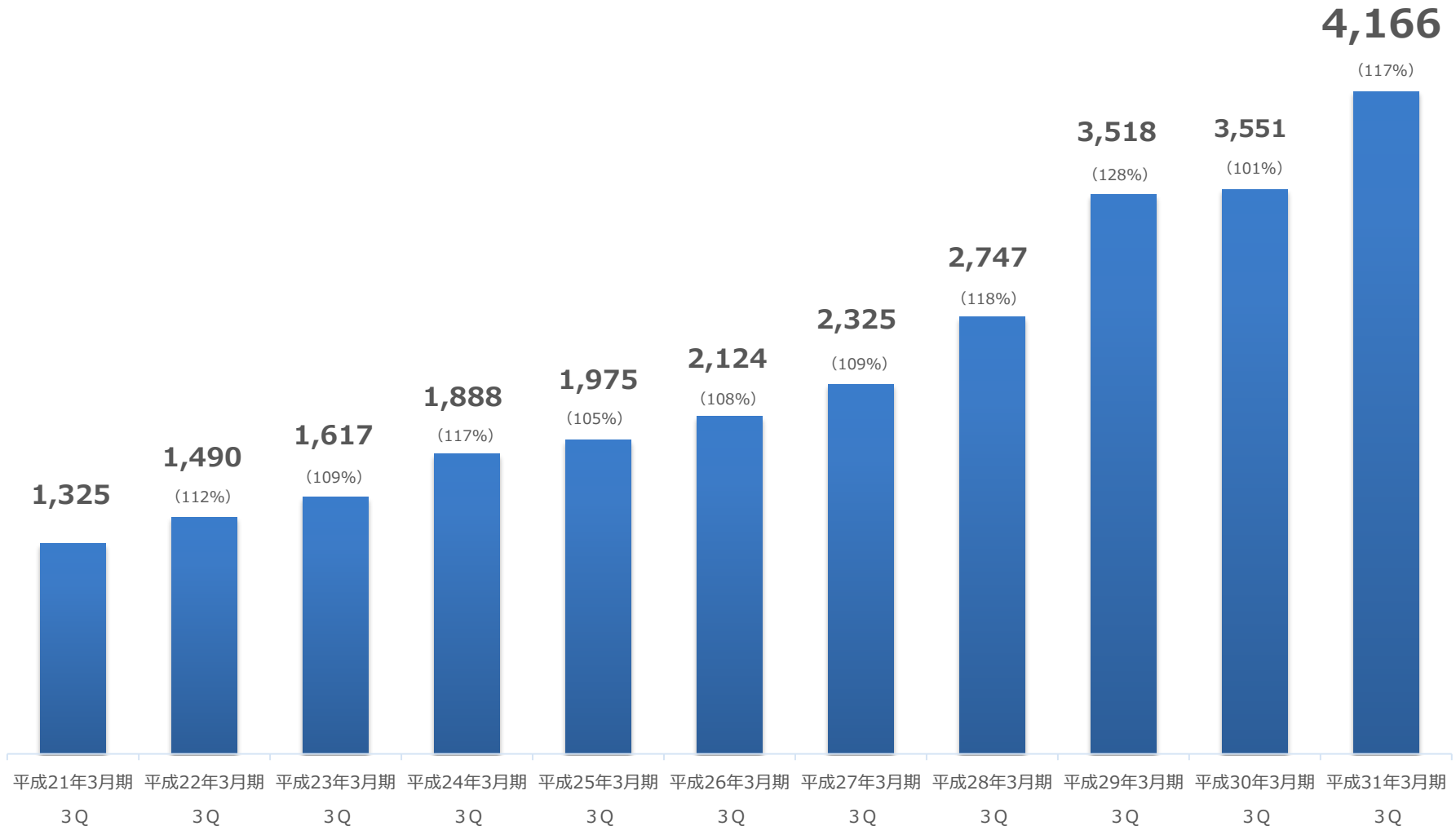
個別（単体）業績

(単位：百万円)

項目	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	前期比	通期予想
売上高	3,523	4,127	+17.1%	5,600
売上総利益	2,730	3,342	+22.4%	4,250
販売管理費	1,426	1,507	+5.7%	1,900
営業利益	1,303	1,835	+40.8%	2,350
経常利益	1,315	1,837	+39.7%	2,350
四半期純利益	947	1,262	+33.2%	1,598
ROE	15.4%	18.4%	—	—

過去最高の売上高を大幅に更新

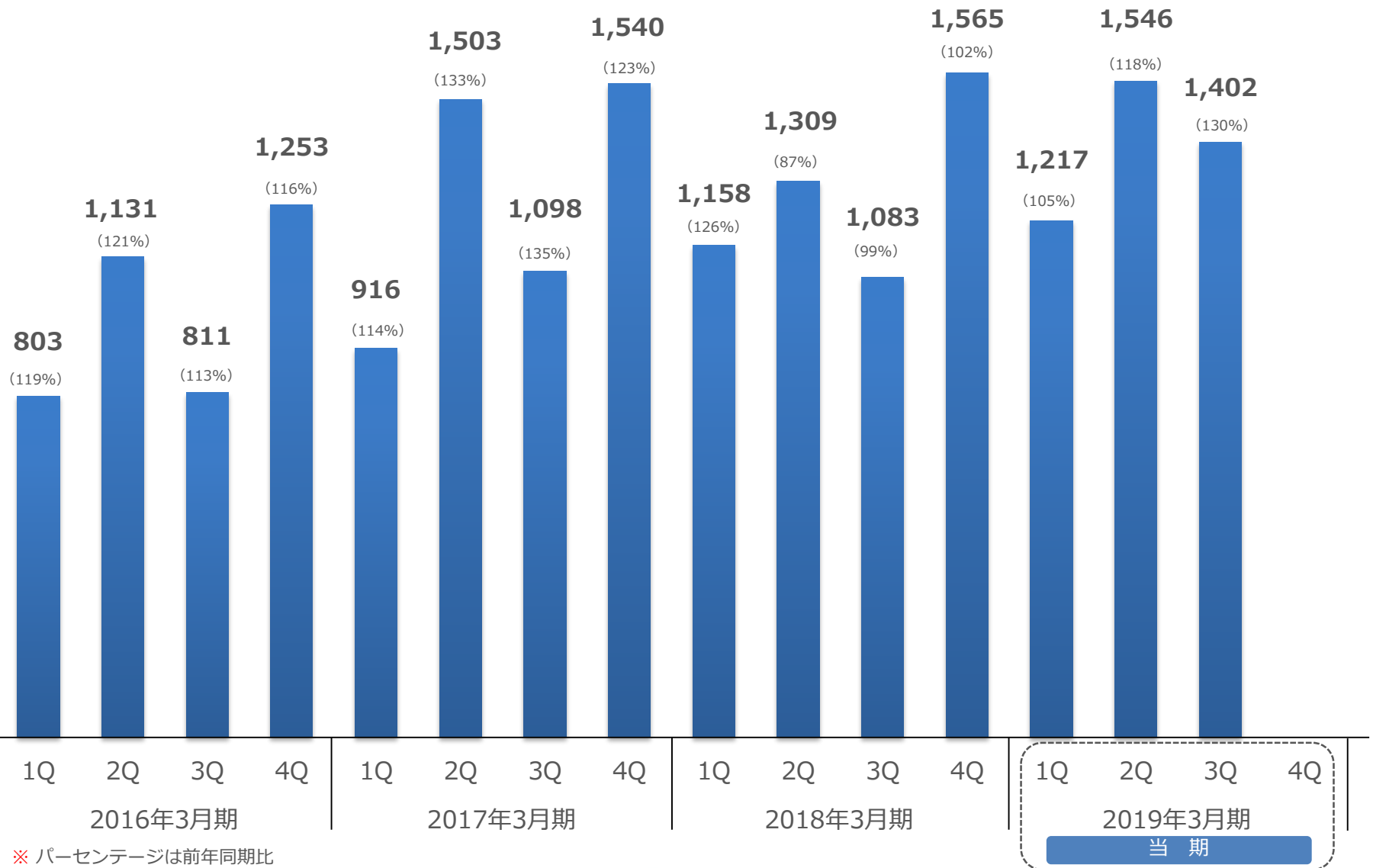
(単位：百万円)



※ パーセンテージは前期比

「i-FILTER」 「m-FILTER」の最新Ver.が牽引し売上拡大

(単位：百万円)



※ パーセンテージは前年同期比

- 上半期において、グループの海外戦略の見直しに伴う再編費用等が発生したものの、第3四半期より経営資源の選択と集中効果が出始め、効率性が向上

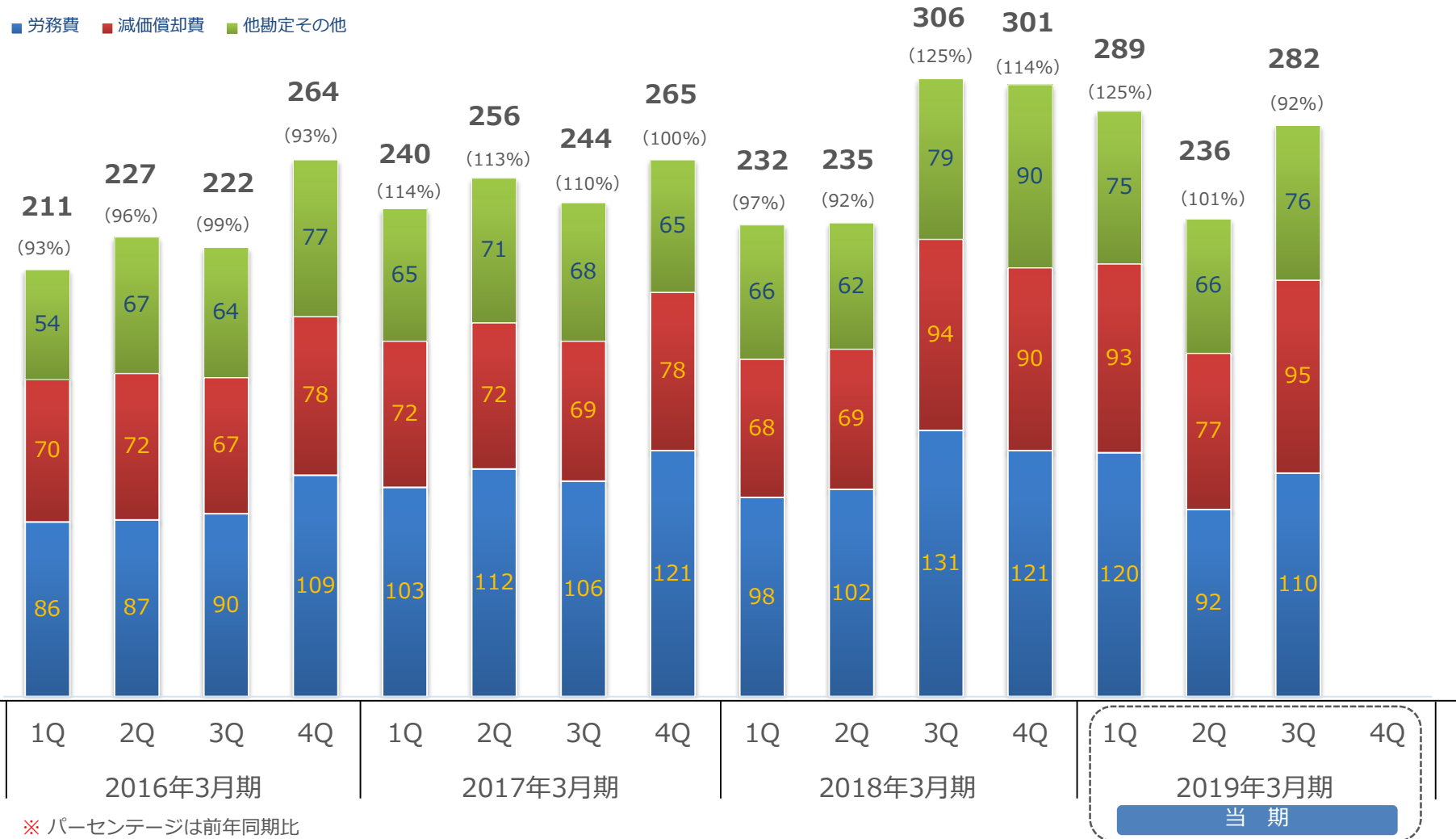
(単位：百万円)

項目	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	前期比	主な増減要因
売上原価	774	809	+35	
労務費	332	323	△9	
減価償却費	232	266	+34	新製品のリリースに伴う償却費増
他勘定振替 その他製造原価	208	219	+10	
販売費及び一般管理費	1,612	1,683	+71	
人件費	795	791	△4	
広告宣伝費	227	232	+5	
その他	589	659	+70	米国子会社を中心とした組織拡大、グループ再編関連費用による増加

コンサルティング人員の増加等あるものの、 売上原価総額は引き続き安定した水準で推移

(単位：百万円)

■ 労務費 ■ 減価償却費 ■ 他勘定その他

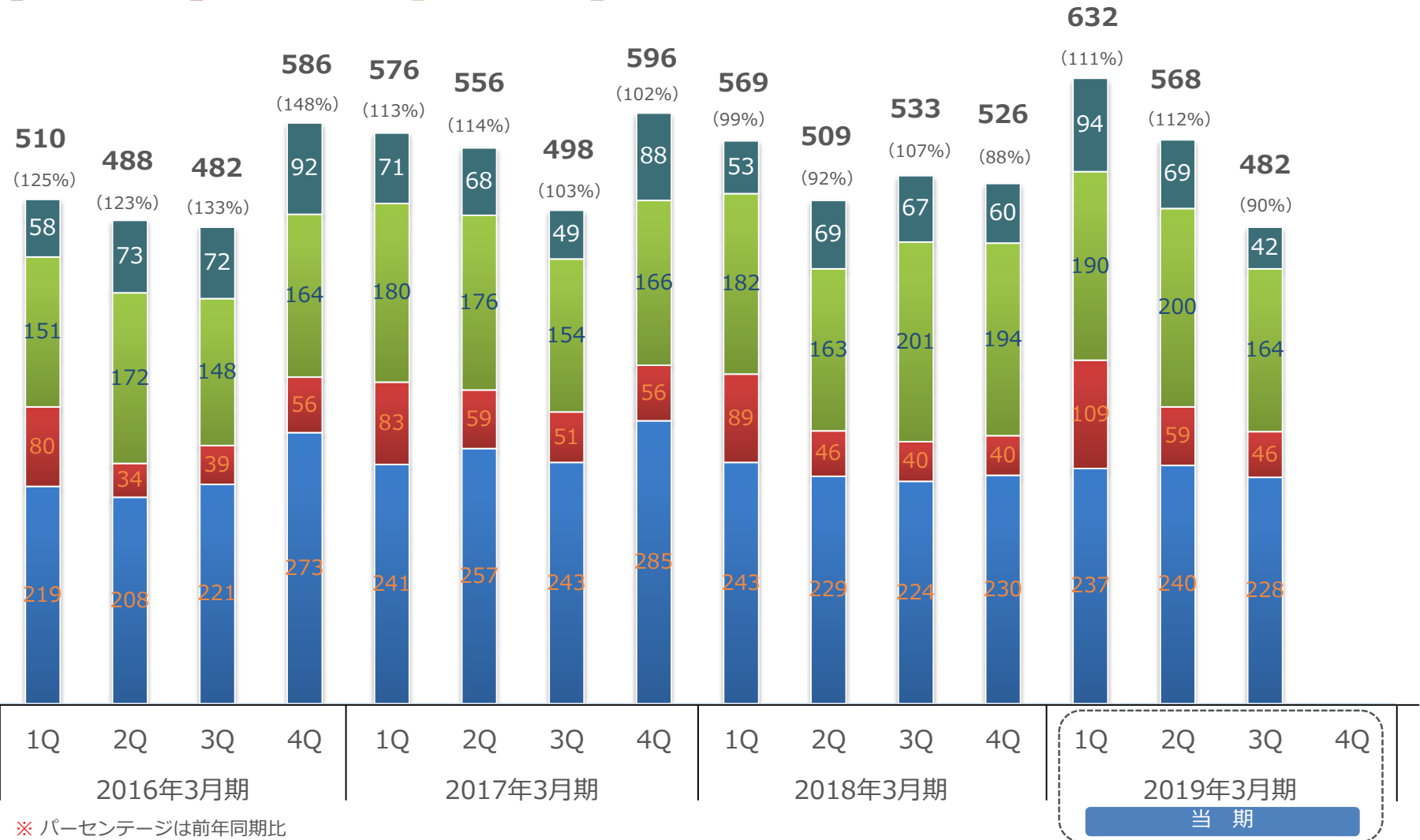


※ パーセンテージは前年同期比

グループ再編効果が出始め、効率性が一層高まる

(単位：百万円)

■ 人件費（国内） ■ 広告宣伝費（国内） ■ その他（国内） ■ 海外費用



※ パーセンテージは前年同期比

2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

市場別詳細

- 連結全体で +17.3% の成長
- 企業向け市場は、年度末偏重傾向が強まり +5.1% の成長
- 公共向け市場は、引き続き新製品好調で+32.7% の成長
- 家庭向け市場は、青少年のフィルタリング導入が進み +38.7% の成長

連結売上高

売上高： **4,166** 百万円 (前期比 +615百万円 / +17.3%)

企業向け市場

売上高： **2,134** 百万円 (前期比 +102百万円 / +5.1%)

公共向け市場

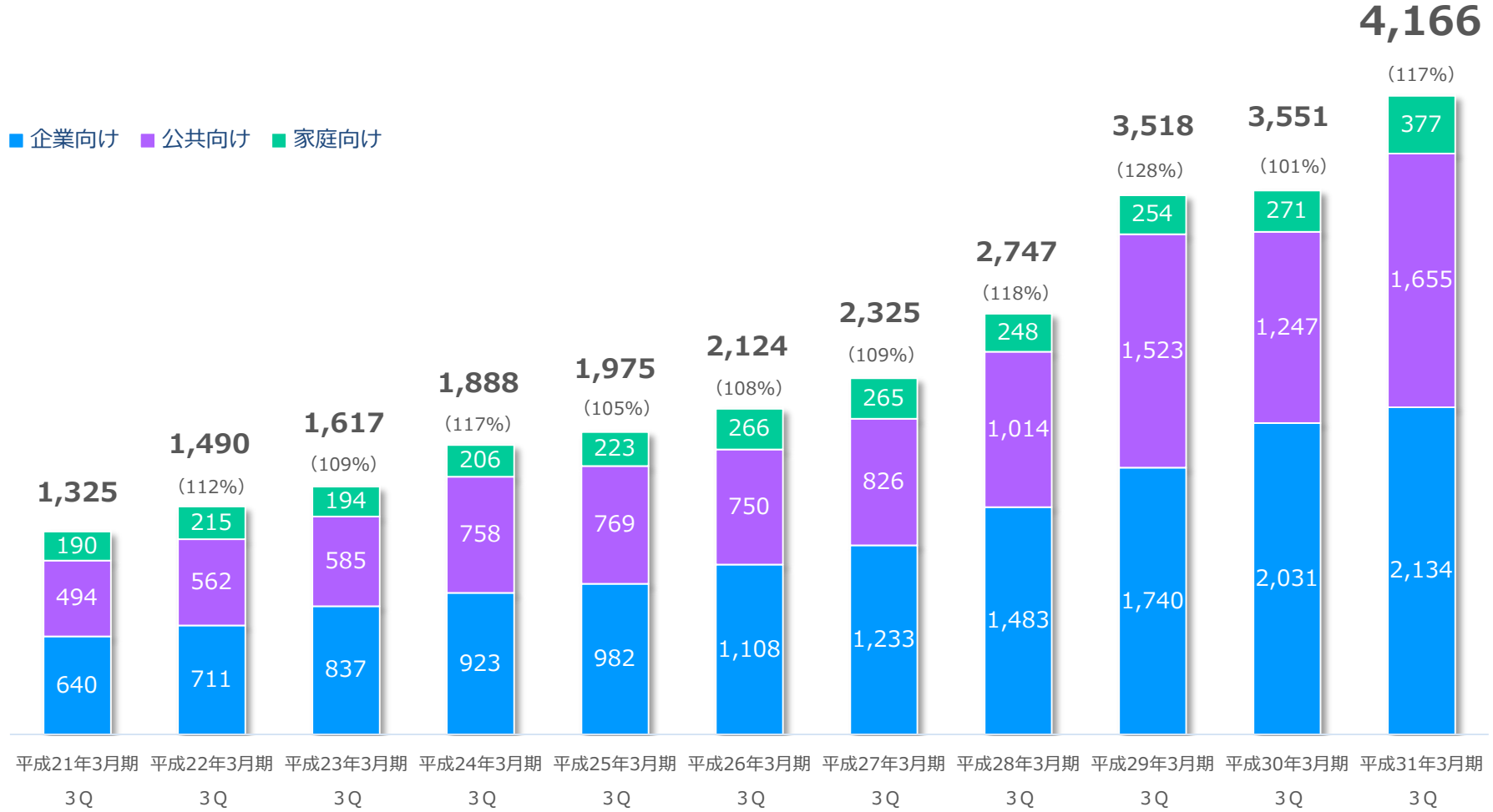
売上高： **1,655** 百万円 (前期比 +407百万円 / +32.7%)

家庭向け市場

売上高： **377** 百万円 (前期比 +105百万円 / +38.7%)

公共向け・家庭向けが全社業績を牽引

(単位：百万円)

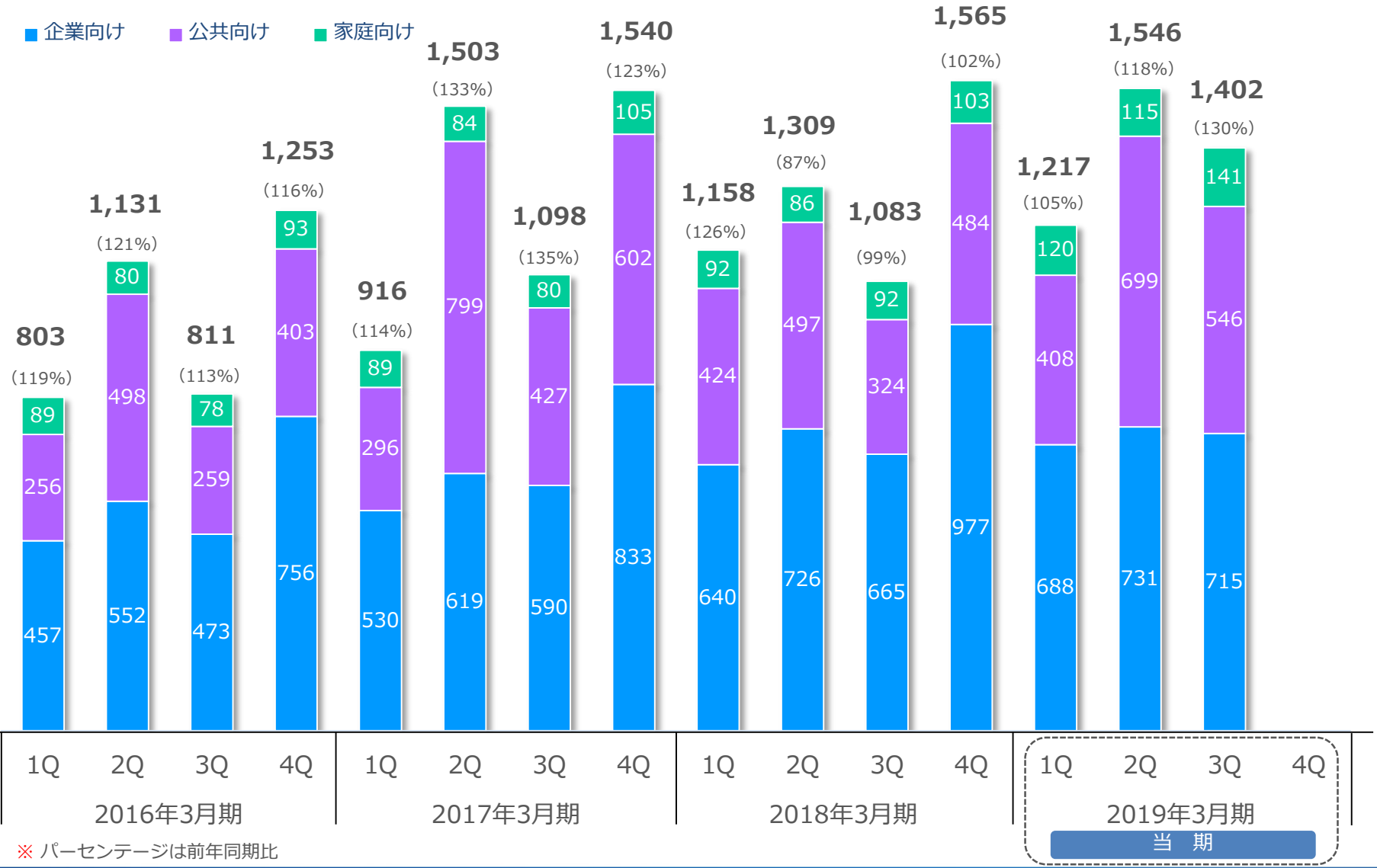


※ パーセンテージは前期比

公共向け市場・家庭向け市場の成長により過去最高の売上を更新

(単位：百万円)

■ 企業向け ■ 公共向け ■ 家庭向け



※ パーセンテージは前年同期比

2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

企業向け市場

- 企業向け市場は案件の大型化による年度末偏重傾向となるも、前連結会計年度からの継続案件等を中心に着実に獲得した事により、主力製品である「m-FILTER」の販売が堅調に推移
- 「FinalCode」は、従来より要望の高かった「ブラウザービュー」機能を追加した事等により、一時期停滞していた案件が活性化し、過去最大の案件※を獲得

※ 売上の計上は契約期間で按分

i-FILTER
Series

前年同期比 **99.2 %**



m-FILTER
Series

前年同期比 **113.9 %**



FINALCODE 前年同期比 **131.7 %**



2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

公共向け市場

- 内部情報漏洩型のセキュリティ対策メーカーとして積み上げてきた実績と信頼性が評価され、標的型攻撃を含めた高度なセキュリティ対策が可能となる「i-FILTER」 Ver.10、「m-FILTER」 Ver. 5 の販売が進む
- 企業向け市場に先行して、公共向け市場における総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まる

i-FILTER
Series

前年同期比 **123.2 %**



m-FILTER
Series

前年同期比 **200.1 %**



FINALCODE

前年同期比 **71.7 %**



2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

家庭向け市場

- 2018年2月1日に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正され、従来から義務付けられている青少年に対するフィルタリング導入の運用がより厳格化
- 拡大する青少年のスマートフォン利用に対して、フィルタリング導入が進む

パソコン版

前年同期比 **102.9 %**

ゲーム機/TV版

前年同期比 **104.1 %**

モバイル端末版

前年同期比 **224.5 %**

i-フィルター



2019年3月期 第3四半期決算補足説明資料

2019年3月期 通期業績予想

2019年3月期 連結業績予想

- グループ再編に伴うコスト抑制効果により、前連結会計年度と同水準のコストに止まる見込み

項目	2018年3月期実績	2019年3月期計画	成長率/増減率
売上高	5,116 百万円	5,800 百万円	13.3 %
売上総利益	4,041 百万円	4,700 百万円	16.3 %
販売管理費	2,138 百万円	2,100 百万円	△1.8 %
営業利益	1,902 百万円	2,600 百万円	36.6 %
経常利益	1,909 百万円	2,600 百万円	36.2 %
親会社株主に帰属する当期純利益	1,281 百万円	2,000 百万円	56.0 %
1株当たり配当金	28 円	36 円	—

2019年3月期 個別業績予想

- 国内市場においては、前期9月に発売した新製品の販売を強化
- 加えて、クラウドサービスを今期5月に開始し、当該分野での成長を加速

項目	2018年3月期実績	2019年3月期計画	成長率/増減率
売上高	5,046 百万円	5,600 百万円	11.0 %
売上総利益	3,986 百万円	4,250 百万円	6.6 %
販売管理費	1,898 百万円	1,900 百万円	0.1 %
営業利益	2,087 百万円	2,350 百万円	12.6 %
経常利益	2,097 百万円	2,350 百万円	12.0 %
当期純利益	860 百万円	1,598 百万円	85.7 %

■ 配当について

株主の皆様に対する利益還元につきまして、以下の通り計画しております

2019年3月期の目標配当性向を連結当期純利益の25.0%

2019年3月期年間剰余金配当予想額は **1株当たり36.00円**

	1株当たり配当金（円）			連結配当性向
	中間	期末	合計	
2018年3月期	14.00	14.00	28.00	30.3%
2019年3月期	18.00			
2019年3月期（予想）		18.00	36.00	25.0%

※ 2018年10月30日公表の「2019年3月期 通期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の通り、通期（連結）業績予想を修正しておりますが、配当予想については保守的に据置きとさせて頂いております

本プレゼンテーション資料に記載されている計画、戦略、財務的予測のうち歴史的事実でないものは、将来の見通しに対する記述であります。本見通しは、当社経営陣が現在入手可能な情報に基づき判断したもので、環境等の変化により大きく見通しの変動する可能性があり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。今後、重要な変化がある場合は適宜開示します。

本プレゼンテーションの基本的な数値の記載は、一部を除き百万円未満を切り捨てて表示しています。

- デジタルアーツ、DIGITAL ARTS、i-FILTER、info board、ARS、ActiveRatingSystem、ACTIVE RATING、ZBRAIN、D-SPA、SP-Cache、NET FILTER、White Web、m-FILTER、m-FILTER MailFilter、m-FILTER Archive、m-FILTER Anti-Spam、m-FILTER File Scan、Mail Detox、i-フィルター、DigitalArts@Cloud、Dアラート、当社・当社製品関連の各種ロゴ・アイコンはデジタルアーツ株式会社の商標または登録商標です。
- FinalCodeはデジタルアーツグループの登録商標です。
- その他、記載された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

DigitalArts®

-より便利な、より快適な、より安全な
インターネットライフに貢献していく-